

令和8年度 上田市立川西小学校 自己評価シート【前期】

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	
自ら考え ともに高め合い かがやく子	①体を鍛え元気よく活動する子	
	②分かるまで粘り強く考える子	
	③笑顔とあいさつで仲良くできる子	
	④自分から物事に取り組みむ子	
	今年度の重点目標	
	1	学力向上・授業改善
	2	あいさつ向上・人権教育の充実
	3	不登校・不適応支援の充実

総合評価					
<p>前期は、視覚的支援やICT活用など個に応じた授業改善が進み、組織的な課題対応や個々の居場所づくりに高い成果が見られた。一方、授業終末の振り返り時間の確保や、児童の自主的な挨拶・清掃態度の定着に課題が残る。後期は全校で統一した指導と時間配分の工夫を図るとともに、行事変更や緊急時対応における丁寧な保護者・地域への説明と対話を徹底し、さらなる信頼構築を目指す。</p>					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
視覚支援やICTで主体性は高まったが、授業終わりの振り返り不足や低位層への復習支援に課題が残る。		○			発問を厳選して1時間の時間配分を適正化し、終末の見届けと既習事項の丁寧な個別フォローを徹底する。
低学年中心にあいさつが広がっているが、全校としての主体活動や児童の人間関係づくりについて課題が残る。			○		児童会主導のあいさつ運動や異学年交流を推進する。また悩みを早期に汲み取れるよう相談週間を実施する。
丁寧な傾聴や家庭連携で安心できる環境ができ登校が増えたものもあるが、不安を訴える児童への初期対応を確実にしたい。		○			全校アンケートや日常の観察で不安を早期発見し、複数体制による手厚いサポートを拡充する。

領域	対象	評価項目	評価の観点
学校教育	学習指導	授業の構成	ねらい・めりはり・見とどけを意識した授業か
		探究的な学習の充実	子どもの問いから始まり新たな問いにつながる探究的学習となっているか。
		教材研究	一人一人の興味関心や「分からない」気持ちに寄り添い、個に応じた授業の工夫がなされているか
		授業のUD化	具体的・視覚的・肯定的な支援がなされているか
	生徒指導	あいさつの充実	児童会が主体となりあいさつを広めようとしているか
		心を磨く清掃	身支度とあとみよそわかを心掛けているか
		けじめある生活	時間やルールを守った生活ができているか
	人権教育	個の活躍の場	じぶこえ集会などを通して、自他のよさに気づくことができているか。
心安らぐ学校		物理的・心理的・時間的に多様な居場所を用意し、どの子も安心できる学校になっているか	
学校運営	組織	チームでの対応	課題に対して担任を孤独にせず、チームで対応しよりよい解決策を見出そうとしているか
		同僚性の発揮	非違行為を生まないために日頃から職員同士のコミュニケーションを密にし開かれた職場となっているか
	地域連携	CSの充実	学校運営協議会と連携し地域やPTAの協力を得ながら教育活動を進めているか

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
目標提示や課題把握を徹底できたが、時間配分が難しく終末のまとめや見届けが徹底できなかった。		○			発問を厳選して配分を見直し、終末に全体の振り返りや個別見届けを行う時間を確実に確保する。
問いの工夫やICT活用で主体性を向上したが、自発的な追究や協働学習の創出には課題がある。			○		総合や生活科を中心に児童自身が課題を設定する場面を設定し、グループでの協働・交流活動を充実させる。
学習カードの選択等で理解は深まったが、復習支援や個別支援の時間が不足した。		○			時間指導での個別の声かけを増やしたり、既習内容の復習時間の確保をたりして、学習したことの定着を図る。
算数等での視覚支援や手順提示、肯定的な声かけを全クラスで意識的に実践できた。		○			視覚提示やロイポート・Canva等のICT活用例を校内で共有し、どの子も理解できるような学習環境作りを継続する。
低学年を中心に自主的な挨拶が増えた。全校・学年を挙げた自発的活動へつながていきたい。			○		児童会や高学年主導の挨拶運動を繰り返し実施し、児童が主体的に声をかけ合える雰囲気醸成する。
師弟同行での身支度や基本指導は徹底できたが、おしゃべりする姿や清掃をやり遂げることの定着に差があった。			○		「あとみよそわか」の振り返りタイムを毎回設け、全職員で同一基準による声かけ・指導を徹底する。
規律指導の継続で基本的生活習慣は高評価だが、廊下走行や移動時の落ち着きに課題が残る。			○		学年・職員全体で指導ラインを統一し、隙間時間や移動時の行動ルールを全校で繰り返し意識化させる。
集会や学級活動で互いの頑張りを認める場面を作れた。					異学年交流(1・6年等)や学級レクを計画的に増やし、互いのよさに触れる機会を増やしていく。
丁寧な対話やサポートルームとの連携で登校頻度の向上が見られたが、低学年を中心に相談したい児童が多い。					アンケートや相談時間を活用して悩みを早期に汲み取り、早期対応を心掛ける。
複数の教育的課題が同時発生した時にも迅速に情報共有し、組織的な解決対応が図られた。					課題共有体制を日常化し、放課後の短い時間でもケース会議や相談ができる時間をとるようにする。
日常的な声かけや相談が活発で、明るい職員間の雰囲気は維持できている。					学年や分掌を超えた小グループでの対話や振り返りの機会を設け、相談しやすさ・風通しの良い環境を維持する。
地域やPTAとの基本的連携は維持できたが、行事変更や下校時刻変更の説明不足から保護者へ心配をかける場合があった。					行事や教育方針の変更時には丁寧な説明とアンケートの活用等を行い、地域・保護者との対話と信頼関係構築を深める。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった

○評価方法 ア:教師自身による評価 イ:学校長による評価 ウ:児童アンケート エ:保護者アンケート オ:学校運営協議会による評価